第3回
宮津市

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 宮津市

10月22日（土） 18:00～20:30

入場料無料
定員150名

基調講演

神山発！日本の田舎をステキに変える
～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～

講師 **大南信也氏**
（特定非営利活動法人グリーンバレー理事長／一般社団法人神山つなぐ公社 業務執行理事）

田舎がすてき

大南信也 Shinya Ominami

特定非営利活動法人グリーンバレー 理事長
一般社団法人神山つなぐ公社 業務執行理事

プロフィール
1953年徳島県神山町生まれ。
米国スタンフォード大学大学院修了。
1990年代初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。
1998年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ア・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、1999年「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を始動。
2007年神山町移住交流支援センター受託運営を開始し、2011年度には神山町史上初となる社会動態人口増を達成。
2010年10月以降ITベンチャー企業等16社のサテライトオフィスを誘致。
「創造的過疎」を持論にグローバルな視点での地域活性化を展開中。

ふるさとづくり有識者会議委員（内閣官房）、文化審議会文化政策部会委員（文化庁）、徳島大学客員教授、四国大学特認教授、東北芸術工科大学客員教授

福知山公立大学開学記念パネルディスカッション

パネリスト **大南信也氏**

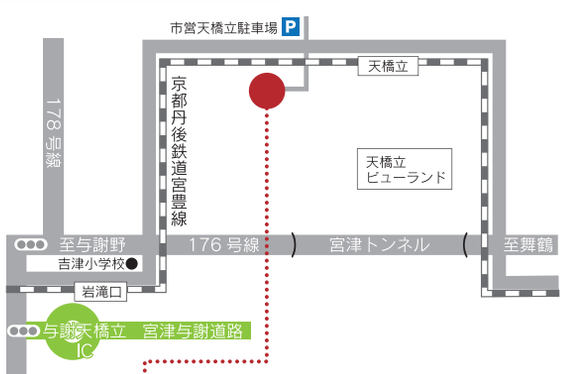
宮津の地域資源活用に取り組む方々
倉田 崇氏
天橋立文珠繁栄会
JouJou coffee and bread

もうお一方、
宮津でご活動の方を予定しています。

コーディネーター
谷口知弘
福知山公立大学教授

井上正嗣
宮津市長

谷口知弘プロフィール
1964年生まれ。
お茶どころ京都府宇治田原町出身。
1990年京都工芸繊維大学大学院修了。
デザインコンサルタントに勤務の後、京都工芸繊維大学助手、立命館大学助教授、同志社大学大学院教授、コンサルタント事務所経営を経て2016年4月より現職。太閤秀吉の伏見城下と明智光秀の福知山城下をいったり来たりの2地域居住。
2016年4月1日より福知山市民。



会場 **ホテル北野屋**
京都府宮津市文珠100
※駐車場は市営駐車場をご利用下さい。

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・宮津市・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（宮津市）

「神山発！日本の田舎をステキに変える

～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」

日時：平成２８年１０月２２日

場所：ホ　テ　ル　北　野　屋

講　　演（要約）

○大南氏　　皆さん、こんばんは。徳島県神山町のＮＰＯ法人グリーンバレー理事長の大南信也です。私の本業は土建屋ですが、ＮＰＯ活動の傍ら本業をやるような感じで地域づくりの活動をしてきました。自分が生まれ育った町を、もうちょっと面白い町、わくわくする町にしたいなという思いが起点でした。今、神山町は、結構面白い町になってるんじゃないかなと思いますが、今日は、グリーンバレーが生まれた経緯や、斬新な地域創生の取り組みについて紹介したいと思います。

１．地域づくりの第一歩は成功を共有できる仲間づくり

ことの始まりは、１９９０年、私の母校の神領小学校で、一体の青い目の人形を見かけたことでした。この人形は、戦前、友好親善のためアメリカから日本の幼稚園や小学校に送られてきたものですが、太平洋戦争の結果、１２，７３９体の人形のほとんどが壊されたり、焼かれたりしました。しかし、一体だけ母校で大事に保存されていた人形が残っていたので、この人形を送ってくれた人を手を尽くして調べたら、送り主がペンシルベニア州のアリス・ジョンスソンという聾学校の先生だとわかりました。

そこで、日本に嫁入りした人形を里帰りさせようということで、１９９１年の雛祭りの日に「アリス里帰り推進委員会」というのを作りました。そして、３０名の訪問団で人形を持って渡米、現地の人と交流してきました。これがきっかけで「神山町国

際交流協会」へと発展し、さらに、わくわくするまちづくりを目指す「グリーンバレー」発足へと繋がっていき、いろいろな取り組みをしてきました。

人形をアメリカに連れ帰ったとき、後にグリーンバレーの中心になるような人が５名ぐらいおりました。いろんなプロジェクトや、地域づくりのまず第一歩は、複数の人間の存在だと思うんです。同じ成功体験を共有したり、雰囲気、空気というのを味わったりするということが非常に重要になってくるんじゃないかと思います。

２．「創造的過疎」による地域創生の取組み

「創造的過疎」、これが、グリーンバレーのテーマの一つです。２００８年を境に日本の総人口は減少し始めています。神山のような過疎化の進んだ場所では、人口減少を食いとめるのは到底無理だ。じゃあ、どうするか。逆に外から若い人を呼び込んで、人口構成の健全化を図っていこうというのが「創造的過疎」の発想です。例えば、「ワーク・イン・レジデンス」というのがあって、職業を持った移住者や、仕事をつくり出してくれる企業を呼び求めています。

グリーンバレーは、外部のＩＴ専門家などの協力を得て、神山町の情報発信も積極的にしているので、マスコミでも紹介されます。昨年の５月には、アメリカの新聞、ワシントンポストにも取り上げられました。そのおかげで、アメリカやイタリア、オーストラリアなどからも反応があり、現に、神山に移住した人や、移住したいという人が出てきています。

「神山アーティスト・イン・レジデンス」、これは、内外のアーティストに滞在してもらい、創作活動をしてもらう試みです。やり始めてから１８年になりますが、これまでに１９カ国から六十数名のアーティストが神山にやってきました。このプログラムによって、住民は、寛容性というかを育み、外国人に対しても優しく接することができる空気を作っていったんじゃないかなと思います。

３．町役場職員と町民が一緒になって作った神山町地方創生総合戦略

神山町は、昨年１２月、地方創生の総合戦略をまとめましたが、その際に、全く新しいやり方で取り組みました。これまでのようなやり方を踏襲せず、役所と住民が一緒になって計画を作り出すんです。まず、役所と住民１４人ずつからなるワーキンググループを作ります。そのメンバーは、アイデアを他人任せではなくて、自分のこととして考え、実行、支援できる人を集めました。そうすると、会議を重ねていく中で塊ができていくわけです。「自分はこういうようなプランをやりたい」、あるいは、「人づくりをやりたい」、「仕事づくりをやりたい」みたいな人のグループが５つ、６つできます。

昨年の１１月、町民向けに中間発表会を開いたとき、面白いことが起こりました。各プロジェクトの担当者のプレゼンが終わった後、出席していた町役場職員や町民の中から、「このプランは私がやる」と次々手が挙がったんです。ある住民が自腹切ってでもやるといえば、役場の若手職員３名ぐらいが、僕らは役場をやめてでもこれをやりますよと言ってくれた。会議の雰囲気が、がらっと変わりました。

神山町地方創生総合戦略は、役場ではなく、町役場職員とグリーンバレーのスタッフが社員になって設立した一般社団法人「神山つなぐ公社」が実行するんですが、計画立案の段階から、もう全速力で回り始めたような感じです。

最後に一言、皆さんは、宮津が大好きですね。でも、手をこまねいていては何も変わりません。好きな宮津をステキな宮津に変えましょう。これ案外簡単なんです。

皆さんが、いい方向に行動を起こしたら、必ずステキな宮津ができ上がります。！「Just Do It!」、とにかくやれです。

御清聴どうもありがとうございました。

（以上）

講演会　講師 大南 信也 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（宮津市）

「神山発！日本の田舎をステキに変える

～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」

日時：平成２８年１０月２２日

場所：ホ　テ　ル　北　野　屋

パネルディスカッション（要約）

○谷口氏　　パネリストのお二人を交えて、お話をしていきたいと思います。

倉田崇さんは、天橋立文殊繁栄会のメンバーで、コーヒーとパンのお店を、小松美香さんは、カフェアンドレストランを経営されておられます。お二人から活動の内容と今後の目標などをお聞きして、大南さんからアドバイスをいただきたいと思います。

１．「JouJou Coffee and bread」の取組事例

○倉田氏　　天橋立の駅前で「JouJou Coffee and bread」というコーヒー屋をしていますが、旅の人が、また来てみたいと思ってもらえるような風景をつくり出す試みをしています。去年、今年と、天橋立の砂浜に自分達で小屋を建てて、丹後のバーテンダー、ピザ職人、カフェなどを集めて、ビーチバーをやりました。また、天橋立文殊堂の山門の前に和傘を立てて、オーケストラの演奏をしたり、夏には、天橋立の新たな朝の楽しみを提供しようということで、マルシェで朝食を買い込んで船に乗ってもらい、朝食を食べながら宮津湾のクルーズを楽しんでいただいたりといったこともやりました。

若い世代が、「もうこのまちあかんな」と思われるのが僕ら一番怖いんです。宮津だ、峰山だとかこだわらず、天橋立、丹後を愛する、クリエイティブな思想を持ったメンバーが集まって、新しいまちの魅力づくりに挑戦を続けていきたいと思っています。

２．「Mog Mog」の取組事例

○小松氏　　私は、市役所の近くで「Mog Mog」というカフェをしていますが、「みやさんぽ」というバルイベントをやっています。バルイベントは、まちの飲食店を食べ歩くことです。一般的に、他の地域でされているバルイベントでは、チケットが使えるのは食べ物だけなんですが、「みやさんぽ」では、食べ物以外に、例えば、１チケットで、魚の競に参加できたり、カフェでコーヒーの入れ方を習ったりすることができるのが特徴です。

大学生や市職員など約３０人の実行委員会が、手弁当でいろんな企画をしています。目玉になりそうなのが、約２０人のコンシェルジェです。決まったコースを案内するガイドではなくて、「みやさんぽ」と書いたたすきがけでまちを歩き、旅の人に親切にしてあげたり、聞かれたらあれこれ話したりするという役で、男性の「おっさんぽ」もいます。

私達は、市民みんながコンシェルジェになって、最終的にはこんな企画が要らなくなることを目標としてやっています。

３．まちを元気にするのはまちを愛する住民

○谷口氏　　大南さん、今のお話を聞かれて、御感想、アドバイスをいただきたいと思います。

○大南氏　　やっぱり、人は面白い場所に集まるんだなと思いました。

天橋立というあまりにも素晴らしい資源を持っていても、ほとんどの人達は１回来たら、よほどの天橋立おたくでない限り、もう１回見たからええわというんで終わると思います。

一番大事なところは、そこに住んでいる人間が一番のポイントになるんじゃないかなというような気がします。小松さんや、倉田さんのように、面白くしよう、してや

ろうという人達が集まれば、当然、まちは躍動して、それが相乗効果で、１つの循環みたいなことを起こしていくのかなという気がします。

市長挨拶

○井上市長　　大南さんには、遠路お越しいただきまして、貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。

倉田さん、小松さんにはパネラーとして参加していただき、ありがとうございました。

また、この講演会を開いていただきました福知山公立大学の井口学長をはじめ、先生方、皆さん、本当にありがとうございました。

今、宮津は、この５年間が正念場だとして、再生に向けて全力を挙げて取り組んでおりますが、「Just Do It!」、とにかくやれという大南さんの力強いお話が聞けて良かったと思ってます。

本日参加いただいた皆さん全員が力を合わせて宮津版グリーンバレーを作っていただきたいとお願いしたいと思います。

また、井口学長から、福知山公立大学が地域にどんどんと入っていくようにしたいとの話がありましたが、宮津の再生にお力を貸していただきたいと思います。

(以上)

パネルディスカッションの様子

パネリスト（左から倉田 崇 氏、小松 美香 氏）

第4回
伊根町

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 伊根町

11月5日(土) 13:30～16:00

基調講演

東北が取り組んでいる新しい農林水産業
～「東の食の会」の事例紹介～

講師 高橋大就 氏（一般社団法人「東の食の会」事務局代表）

入場料無料
定員100名

高橋大就 Daijyu Takahashi

一般社団法人「東の食の会」事務局代表

プロフィール
外務省に8年半勤めた後
2008年4月、マッキンゼー・アンド・カンパニーに転職。
その後3.11を受けて休職、東北に入る。
2011年6月、一般社団法人「東の食の会」発足とともに事務局代表就任。
8月、正式にマッキンゼー社を退社し
オイシックス株式会社海外事業部長（執行役員）に就任。
2015年10月、Oisix Hong Kong Co., Ltd.を設立、董事長（代表取締役）に就任。
現在、オイシックス香港の代表を務め
日本の安全安心な食材を海外に販売する事業を展開するのと同時に
東の食の会にて東北の食のプロデュースを行い
「サヴァ缶」や「アカモク」などのヒット商品を生み出している。

福知山公立大学開学記念 パネルディスカッション

パネリスト 高橋大就 氏

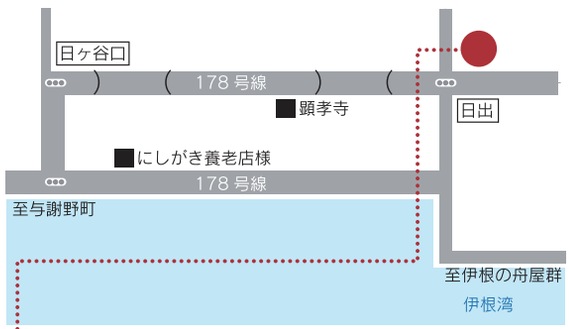
吉本秀樹 伊根町長

佐川善博 氏
蒲入水産（有）代表取締役

松山義宗 氏
（株）KOMOIKEあずき

佐藤　充　プロフィール
1983年生まれ。千葉県出身。法政大学大学院政策科学研究科博士後期課程を経て、
2014年より一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構で研究員として勤務。
大学院在学中には、自治体シンクタンクや大学付属研究所で研究員を歴任。

コーディネーター
佐藤　充
福知山公立大学 助教



会場 伊根町コミュニティセンター
ほっと館（ホール）
京都府与謝郡伊根町日出651番地 伊根町役場 P有り

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・伊根町・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（伊根町）

東北が取り組んでいる新しい農林水産業

～「東の食の会」の事例紹介～

日時：平成２８年１１月　５日

場所：伊根町コミュニティセンター

ほっと館（ホール）

講　　演（要約）

１．「東の食の会」について

「東の食の会」は、東北のすばらしい食材、生産者に対して首都圏を中心に継続的な販路をつくろうという発想からつくられた団体です。参加企業は、食関連企業のオイシックス、カフェカンパニー、キリン、キューピー、ぐるなび、セブン＆アイ、ファミリーマート、ローソン、伊藤忠食品などの大手企業が約４０社を数えるだけではなく、小規模な居酒屋や卸売業者もメンバーになっています。

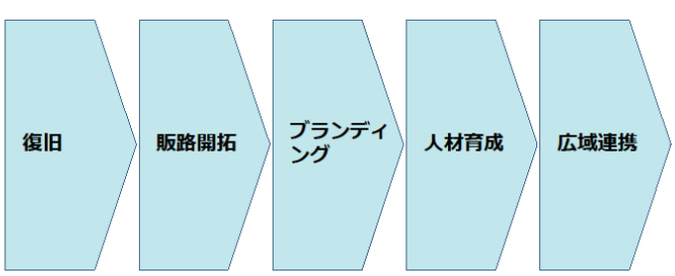
当会は、具体的な経済効果を生み出すために立ち上げられ、ビジネスとして事業を展開しています。これまでの成果（２０１６年６月まで）をみると、マッチング件数は５年間の目標値である５００件に対して約２，５００件となり、また流通総額は５年間の目標値である２００億円に対して約１５０億円となっています。一非営利団体の活動としては、一定以上の評価を与えることができると思います。

２．東北の一次産業復興のステップ

東日本大震災による被害は大きなものでした。死者・行方不明者が約２万人、避難者がピーク時４０万人超でした。また、津波被害農地は2万1千ヘクタール、漁船被害は2万8千隻、農林業と水産業のインフラ被害額はともに１兆円超となり、大きな被害をこうむりました。

東北の一次産業復興のステップ

（図表１）



東北の一次産業復興のステップは、①復旧、②販路開拓、③ブランディング、④人材育成、⑤広域連携の５つの段階に分けられます。（図表１参照）

まず、復旧の段階において、当会では、特に放射能検査に取り組みました。元IAEA顧問であり国際的な専門家であるジェームズ・M・スミス教授の助言を得ながら、放射能検査の機器導入支援、その他情報発信の取り組みを行いました。

次に、販路開拓の段階では、福島県、宮城県、岩手県の地方銀行6行から地元生産者の情報提供も受けながら､復興を目指す生産者と支援企業とのマッチング事業を推進しました。

第3に、ブランディングでは、東北のイメージを一新する、インパクトのあるものをということでさまざま商品をつくりました。

まず、缶詰の装飾にイエロー一色を施した、この「Ça va(サヴァ)缶」、オリーブオイルに漬けたサバの缶詰です。これが１５０万缶ぐらい売れ、地方発のヒット商品の一つのモデルケースのような形になりました。ただ、半年後には某メーカーが、これをまねた類似商品を出してきました。東北の商品をみんな不安視していた中で、今や、まねをされる状況は、非常にうれしく思っています。

また、宮城ではギバサ、岩手ではアカモク、新潟ではナガモなどと地方によって名前が違う海藻があります。免疫力と脂肪燃焼効果では、海藻の中でも断トツですが、従来は、ぱっとしない伝統的なパッケージで売られていました。そこで、名前を学名のアカモクに統一し、女性をターゲットにしたパッケージにしました。このアカモク、東京では、震災前はほぼ認知度ゼロでしたが、今は、市場が５倍ぐらいに広がっています。

福島でも、甘酒を高級化粧品的なブランディングにして、コージービューティー（ｃｏｚｙ　ｂｅａｕｔｙ）という名前で売り出しています。こうじの美容ドリンクといった意味合いですが、徐々に売れ始めています。

このような販路開拓やブランディングは、今は、我々よそ者が入って、地域の方々と一緒に取り組んでいますが、地域の中にこのようなスキルを身につけないと長期的な復興につながらないことに気づき、途中から人材育成事業を立ち上げました。

当会が中心となって、三陸全体、福島も含めて規模の大小、年齢に関係なく、とにかくポジティブな人なら誰でもいいから来てくださいと呼びかけたら、非常に前向きな若者たちが各地域から集まり、マーケティングやブランディングを勉強する「三陸フィッシャーマンズ・キャンプ」が開催できました。

このキャンプに参加した若者たちは、地域の垣根を超えて、東北の地に「フィッシャー

マンジャパン」という団体をつくりました。広域連携の段階です。彼らは、助成金を得て、漁師の卵のためのコ・ワーキングスペースをつくり、無料で住まわせたり、研修をしたりするなどの事業を行っています。また、彼らは、自分たちのことを「新３Ｋ」と称しています。格好よくて、稼げて、革新的という意味です。このテーマをベースにして、三陸のプロモーションビデオも制作しています。

このような連携は、「フィッシャーマンズ・リーグ」や「チームふくしまプライド。」にもつながりました。また、同じ仲間の岩手の水産加工業の方は、先日、三陸ブランドをひっさげてハワイとロサンゼルスで展示会を行い、既に大きな取引も決まっているような状況です。いろんな地域から集まってきた人たちでも、地域を超えた連携が生まれて、思いもしなかった新しいことが、次々と起きるのだということを、今、私は感じています。

３．新しい一次産業のキーワード

新たな一次産業を考えるためのキーワードとして５つの点が挙げられます。（図表２参照）

まず、「顧客視点」があります。今ある商品を売り込む「販売」ではなく、顧客に選ばれるための戦略づくりを行う「マーケティング」が大切になります。「何を売るのか」という視点から「なぜ買うのか」という視点に変えていく必要があります。

次に、「右脳と左脳と心」です。マーケティングを実施する際には、商品やサービスの機能的な価値は左脳に、デザイン的な価値は右脳に、情緒的な価値は心に、それぞれ訴求する三角形マーケティングが求められています。

第３に、「ブランド」が挙げられます。ブランドのありたい姿であるブランド・アイデンティティを明確にして、消費者の心の中に明確なブランド・イメージを形成しなければなりません。ブランドは、売り手の中ではなく、買い手の心の中にあります。

第４に、「変態」も大切になります。例えば、イチゴを一粒１，０００円で販売してしまう農業法人の社長や六本木のステージで語ってしまう漁師といった型破りな人たちがいます。今までにない発想で、新しいことに取り組む変態も重要になります。

最後に、「壁を壊す」というポイントがあります。ここでいう壁とは、①サプライチェーンにおける業態の壁、②行政区域の壁、③地元民とよそ者の壁の３つです。それぞれの壁を壊していくなかで、これまでにはない一次産業を生み出すことができます。

（図表２）

新しい一次産業のキーワード

1. 顧客視点
2. 右脳と左脳と心
3. ブランド
4. 変態
5. 壁を壊す

（以上）

講演会 講師 高橋 大就 氏

開学記念連続講演会（伊根町）

東北が取り組んでいる新しい農林水産業

～「東の食の会」の事例紹介～

日時：平成２８年１１月　５日

場所：伊根町コミュニティセンター

ほっと館（ホール）

パネルディスカッション（要約）

○佐藤助教　　福知山公立大学地域経営学部で助教を務めております佐藤充です。本日の進行役を務めさせていただきます。

一般社団法人東の食の会事務局代表の高橋様の基調講演を受けまして、伊根町長の吉本様、株式会社ＫＯＭＯＩＫＥあずきの松山様、蒲入水産有限会社代表取締役の佐川様、そして高橋様を交えてお話をしていただきます。

１．各パネリスト自己紹介及び基調講演を受けて

まず、自己紹介と、講演のコメント、質問などを伺いたいと思います。

○佐川氏　　私は、この２月まで現役の漁師でした。今、大型定置網や加工事業、それから、地域で小さい店をやっております。漁師が格好ええというお話でしたが、容姿ではなく、仕事で格好ええと受けとめたんですが。

○高橋氏　　そうですね。生き様というか、我々が失ったものを持ってるなという意味です。特に、女性が非常に惹かれています。

○松山氏　　薦池大納言の販売と生産、それと、イタリアンレストランもやっています。地元の薦池大納言を世の中に知らしめて、一次産業の収入が増える仕組みを作りたいと、ここ３年余、町長の支援も受けて頑張っています。成功例を紹介いただきましたが、苦労される点などをお聞きしたいです。

○高橋氏　　値づけですね。一方的に７掛け、８掛けでしか卸さないと言った途端に、ほとんどの販路を失ってしまいがちです。買い手視点でＷｉｎ－Ｗｉｎの関係を設定することを心がけています。

○吉本町長　　私は、大学卒業後、すぐ漁師になり、町会議員を経て町長になりました。伊根町で誇れるものを世界に発信しようと１０年近く言い続けてきましたが、高橋さんのお話を聞いて、私は間違っていなかったと思いました。それから、農業も漁業も、きつい、汚い、危険と思われていますが、その辺の意識改革も必要だろうと思いました。

もう一つ、広域連携の話ですが、みんな「京都は一つだ」というんですが、腹の中は「京都はそれぞれの市町にわかれている」なんです。京都府内の市町が一つにまとまるにはどうしたらいいんでしょう。

○高橋氏　　まず、こういうエネルギッシュな町長がいるところは、素晴らしいと思います。東北でも成功している地域は、首長さんの影響力、リーダーシップが非常に大きいです。今、三陸のブランドを決めようと行政のほうで協議会が立ち上がっています。三陸には、ホタテ、フカヒレ、ギンザケといろいろあるんですが、我々は漁業者の方々とリーダーとで相談して、勝手にシンボルは「カキとワカメ」と決めてプロモーションビデオを作りました。民間先行の成功事例があれば、それを行政がすくいあげて展開するのも一つの方法かと思います。

２．各パネリストの事業における現状と課題

○佐藤助教　　高橋さんには、いろいろキーワードを挙げていただきましたが、私は資源管理も重要と思いますが、この点についてお考えを聞かせてください。

○高橋氏　　意識の高い水産業者は、みんなそのことは考えていまして、我々もアメリカの環境団体と資源管理を積極的にやろうとしているところです。

○佐藤助教　　佐川さんは、定置網事業、加工事業、漁港めしもされておられるので

すが、現状と課題をお聞かせください。

○佐川氏　　人手が地元でなかなか見つからないので、他の土地からも来てもらっています。蒲入地区では、かつて６０軒ぐらいが、漁師でしたが、今、携わっているのは半分程度です。若い人は都会へ出ていきます。私の子どもにも帰って跡を継げとはなかなか言いづらいですね。

○佐藤助教　　松山さんがやっておられる幻の薦池大納言の商品開発の取り組みと課題についてお聞かせいただければと思います。

○松山氏　　薦池大納言は特殊な小豆で値段も高いんです。地元の方に買っていただくのは到底無理だと思い、都会で売ろうと、東京や大阪まで出向くなど生産から営業まで、私が全てやりました。薦池大納言をＪＡに出荷すれば、１キロ８００円で買い取られますが、私は２，２００円で買い取ることを決めました。安く買い上げては生産者の暮らしが成り立たないからです。そうやって、一次産業を周りの人も育てていかないとだめだと思いますね。悩みは、佐川さんと同じく、人手不足、後継者がいないことです。

○佐藤助教　　一次産業のサポートについて、行政サイドから、吉本町長のお考えを聞かせてください。

○吉本町長　　行政としては、考えることは補助金ばっかりなんですね。新規就農されたら５年間１５０万、漁業者であれば、ちゃんと漁業権を持たれるときには、年間１５０万を２年間などの補助があります。ほかに子どもの教育費や医療費、給食費などの支援策もあります。しかし、もっと根本的な支援策が必要だと思います。講演会等では、講演者は、農業や水産業の環境は厳しいなんて言うばかり。暗いんですよ。漁業者、農業者も一人一人が最低収入５、６百万取れるようにしたい。できるかできないかはわからないですよ。だけど、それを達成するにはどうやっていったらいいのだろうか。みんなで語って優先順位がつき、やらなければならないことが生まれたら、あとは、それをやるかやらないかではないかと思います。

○高橋氏　　今、町長の仰ったことは、すごい重要だと思いました。日本は、人口が減っているのであらゆる産業で人が足りない。しかし、地域産業を支える担い手は絶対に必要。とにかくチャレンジしないことには、成功も絶対生まれないので、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをしていくことしかないんじゃないかなと思います。

○佐藤助教　　最後に、大学との連携について御意見を伺いたいと思います。

○高橋氏　　先ほど、福知山公立大学の話を聞いて思ったのは、地域産業を起こす担い手を育てることが学校のミッションだとすれば、学生達に好き勝手にやらせるスペースを与え、起業にもチャレンジさせるようなこともいいかなと思います。

○佐川氏　　福知山公立大学には、一次産業に興味を持っていただく人材を育てていただくことを特に期待してます。

○松山氏　　伊根町の現状を知っていただくために、学生に現実をそのまま見せるというのが大事かなと思います。

○吉本町長　　私が大学４年のとき、先生に家業のことを聞かれて、丹後の伊根の漁師ですと言ったら、それを継ぐのも君の道じゃないかと言われたんです。先生方も、そういうことを一言伝えてあげてほしいです。それから柔らかい頭の若者とぜひともコラボをさせていただきたいですね。

○佐藤助教　お話をお伺いしていてすごく印象に残ったことが数多くありますが、そういった中で、本学がどのような形で伊根町さんと一緒になって地域の課題に取り組んでいくかというところが、我々に突きつけられている部分かと思います。

ありがとうございました。

（以上）

パネルディスカッションの様子

パネリスト（左から松山 義宗 氏、吉本 秀樹 伊根町長）